

I 事業報告書

1. 一般概況

(1) とうもろこしの国際需給の動向

2019/20年度の生産量は、世界全体で前年度比1.0%減の11億1,201万トン、消費量は、世界全体で対前年度比0.8%減の11億3,547万トンと見込まれている。この結果、期末在庫量は、対前年比7.3%減の2億9,734万トンで、期末在庫率は、前年度を1.8ポイント下回る26.2%と見込まれている。

2019/20年度の米国産とうもろこしの生産量は、対前年度比4.5%減の3億4,779万トンと見込まれている。需要量は、飼料向け需要では増加し、輸出等においては減少し、対前年度比1.5%減の3億5,739万トンと見込まれ、この結果、期末在庫量は、対前年度比14.8%減の4,806万トン、期末在庫率は13.4%と見込まれている。作付面積は、対前年度比0.2%増の3,298万haと増加し、単収は前年度比4.8%減の10.54トン/haと見込まれている。

(2) 国内の配合飼料生産の動向

平成30年度の配合飼料生産量は、2,331万トンで対前年度比99.7%となり、畜種別では、養鶏用(対前年度比99.7%)、養豚用(同99.4%)、乳牛用(同99.7%)及び肉牛用(同99.9%)で全畜種において微減した。

平成31年4月～令和元年12月の配合飼料生産量は、1,775万トン、対前年度同期比100.8%となっており、畜種別では、養鶏用(対前年度比100.5%)、養豚用(同100.7%)、乳牛用(同101.4%)及び肉牛用(同101.3%)で全畜種において増加した。

(3) 価格の動向

① とうもろこしのシカゴ相場

とうもろこしのシカゴ相場については、平成31年4月以降、米国作付面積及び在庫が予想を上回ったことから350セント/ブッシェル台で推移したが、米国産地での降雨により作付けが大幅に遅延したことから450セント/ブッシェル台まで上昇したものの、天候回復により、8月には360セント/ブッシェル台での推移となった。その後、380セント/ブッシェル台で推移していたが、四半期在庫が市場予想を下回ったこと等から、400セント/ブッシェル前後まで値上がりした。その後の天候回復により、380セント/ブッシェル台で推移したが、南米の豊作期待、作付面積増加期待に加え、新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の後退懸念、原油急落等の影響から、令和2年3月末では340セント/ブッシェル台で推移している。

② フレート

米国ガルフ/日本間の海上運賃は、年度上半期は、原油価格の堅調な推移、中国向け石炭の好調な輸送需要から、45ドル/トンから55ドル/トン前後で推移し、排ガス規制対応等も加わり底堅く推移すると見込まれていたが、新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の後退懸念、原油急落等の影響等により軟調に推移し、令和2年3月末では49ドル/トン前後で推移している。

③ 為替レート

外国為替は、平成31年4月以降1ドル111円台で推移していたが、米国大統領による中国への追加関税表明により円高が進み1ドル108円台推移した。その後、更なる追加関税表明により円高が進んだものの、米国経済が好調なことから1ドル109円台で推移した。

その後、新型コロナウイルス感染拡大の影響から急落から急反発と荒い相場が続いており、令和2年3月末では1ドル108円前後となっている。

④ 配合飼料価格

配合飼料価格については、令和元年度第1四半期は、シカゴ相場の若干の下落などから、前四半期に対し引き下げられた。

第2四半期は、シカゴ相場の下落、円高の影響等により、前四半期に対し引き下げられた。

第3四半期は、作付面積、単収が市場予想上回ったことから、シカゴ定期が下落し、前四半期に対し引き下げられた。

第4四半期は、排ガス規制強化に伴うフレートの上昇、円安などの影響から前四半期に対し引き上げられた。

2. 入会預り金の状況

令和元年度においては、会員及び会員からの入会預り金に異動はなかった。令和2年3月31日現在の入会預り金の状況は、次のとおりである。

会 員 別	入会預り金口数	入会預り金額
	口	千円
(独)農畜産業振興機構	8,000	800,000
(一社)全国配合飼料供給安定基金	1,268	126,800
(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金	113	11,300
(一社)全日本配合飼料価格畜産安定基金	1,613	161,300
全国農業協同組合連合会	798	79,800
全国酪農業協同組合連合会	39	3,900
全国畜産農業協同組合連合会	1	100
全国開拓農業協同組合連合会	1	100
日本養鶏農業協同組合連合会	1	100
(協)日本飼料工業会	1,166	116,600
計 10 団 体	13,000	1,300,000

3. 業務運営

(1) 配合飼料価格安定対策事業（公益目的事業1）

① 交付契約数量

令和元年度の各契約基金との異常補填交付金交付契約数量は、当初23,686,991トンであり、基金別では、全国配合飼料供給安定基金6,516,507トン、全国畜産配合飼料価格安定基金1,289,072トン、全日本配合飼料価格畜産安定基金15,881,412トンであった。

6月に豚熱発生に伴う交付契約数量の変更及び9月に各基金間移動に伴う交付契約数量の変更を行った結果、全国配合飼料供給安定基金 6,526,356 トン、全国畜産配合飼料価格安定基金 1,288,023 トン、全日本配合飼料価格畜産安定基金 15,883,080 トンとなり、総交付契約数量は 23,697,459 トンとなった。

② 異常補填交付金交付事業

令和元年度においては、補填の発動はなく、異常補填交付金の交付はなかった。

③ 通常補填財源支援事業

平成20年度第2四半期及び第3四半期において、各契約基金の通常補填を行うための財源に不足が生じたため、当機構が農畜産業振興機構から 292 億円の補助金を受け入れ、各契約基金に貸し付けた。このうち、平成31年3月末現在貸付金残高 73 億円について、令和元年5月31日付けで、全国配合飼料供給安定基金より約 20 億円、全国畜産配合飼料価格安定基金より約 4.5 億円、全日本配合飼料価格畜産安定基金より約 48.5 億の合計 73 億円が返還され、同日付けで、当機構から農畜産業振興機構に返還を行った。

(単位：千円)

区 分	平成30年度末 貸付金残高	令和元年度 貸付金返還額	令和元年度末 貸付金残額
全国配合飼料供給安定基金	1,998,010	1,998,010	0
全国畜産配合飼料価格安定基金	451,160	451,160	0
全日本配合飼料価格畜産安定基金	4,855,550	4,855,550	0
合 計	7,304,720	7,304,720	0

④ 通常補填財源強化事業

平成25年度及び26年度において、各契約基金の通常補填を行うための財源を強化するため、当機構が農畜産業振興機構から 224.6 億円の補助金を受け入れ、各契約基金に貸し付けた。平成31年3月末現在貸付金残高 224.6 億円のうち、令和元年5月31日付けで、全国配合飼料供給安定基金より約 35.3 億円、全国畜産配合飼料価格安定基金より約 6.4 億円、全日本配合飼料価格畜産安定基金より約 67.1 億円の合計 108.8 億円が返還され、同日付けで、その額を当機構から農畜産業振興機構に返還した。さらに、令和2年1月末現在貸付金残高 115.7 億円について、繰上償還することとなり、令和2年2月20日付けで、全国配合飼料供給安定基金より約 27.8 億円、全国畜産配合飼料価格安定基金より約 7.3 億円、全日本配合飼料価格畜産安定基金より約 80.6 億円の合計 115.7 億円が返還され、同日付けで、当機構から農畜産業振興機構に返還を行った。

(単位：千円)

区 分	平成30年度末 貸付金残高	令和元年度 貸付金返還額	令和元年度末 貸付金残額
全国配合飼料供給安定基金	6,315,200	6,315,200	0
全国畜産配合飼料価格安定基金	1,371,850	1,371,850	0
全日本配合飼料価格畜産安定基金	14,772,960	14,772,960	0
合 計	22,460,010	22,460,010	0

(2) 調査事業（公益目的事業2）

飼料製造工場を対象に、飼料生産・出荷・在庫動向、工場渡価格、原料使用量、都道府県別生産量、都道府県別出荷先別出荷量等を毎月調査するとともに、飼料穀物の国際需給、価格、フレート等配合飼料に関連するデータを取りまとめ、「飼料月報」として毎月発行した。

4. 会議の開催

(1) 総会

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| ① 第45回定時総会 | 令和元年6月26日開催 |
| 第1号議案 | 役員の選任について |
| 第2号議案 | 定款の一部変更について |
| 第3号議案 | 業務方法書の一部変更について |
| 報告事項 | 平成30年度事業報告及び決算について |
| ② 臨時総会 | 令和元年9月20日開催 |
| 第1号議案 | 役員の補選について |
| ③ 臨時総会 | 令和元年11月21日開催 |
| 第1号議案 | 役員の補選について |
| ④ 臨時総会 | 令和2年2月25日開催 |
| 第1号議案 | 常勤役員の募集要領（案）について |
| ⑤ 臨時総会 | 令和2年3月27日開催 |
| 第1号議案 | 理事の報酬総額及び監事の報酬総額（案）について |
| 報告事項 | 令和2年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて |

(2) 理事会

- | | |
|------------|-----------------------|
| ① 第269回理事会 | 令和元年6月5日開催 |
| 第1号議案 | 平成30年度事業報告及び決算について |
| 第2号議案 | 役員の選任（候補）について |
| 第3号議案 | 定款の一部変更について |
| 第4号議案 | 業務方法書の一部変更について |
| 第5号議案 | 会計処理規程の一部変更について |
| 第6号議案 | 第45回定時総会の招集及び付議事項について |
| ② 第270回理事会 | 令和元年6月26日開催（書面） |

石木俊治を代表理事に選定し、理事長とすること及び進藤眞理を業務執行理事に選定し、専務理事とすることについて、令和元年6月26日に理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第38条第2項に基づき、理事会の決議があったものとされた。

- | | |
|------------|--------------------------|
| ③ 第271回理事会 | 令和元年9月6日開催 |
| 第1号議案 | 役員の補選について |
| 第2号議案 | 配合飼料異常補填交付金交付契約の数量変更について |
| 第3号議案 | 職員就業規程の一部変更について |
| 第4号議案 | 臨時総会の招集及び付議事項について |

報告事項 上期職務執行状況報告について

④ 第 272 回理事会 令和元年 11 月 6 日開催（書面）

役員候補選について及び臨時総会の招集及び付議事項（案）について、令和元年 11 月 6 日までに理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第 38 条第 2 項に基づき、理事会の決議があったものとされた。

⑤ 第 273 回理事会 令和 2 年 2 月 7 日開催（書面）

常勤役員募集要領（案）について及び臨時総会の招集及び付議事項（案）について、令和 2 年 2 月 7 日までに理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第 38 条第 2 項に基づき、理事会の決議があったものとされた。

⑥ 第 274 回理事会 令和 2 年 3 月 11 日開催（書面）

令和 2 年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて、理事の報酬総額及び監事の報酬総額（案）について、会計監査人の報酬（案）について及び臨時総会の招集及び付議事項（案）について、令和 2 年 3 月 11 日までに理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第 38 条第 2 項に基づき、理事会の決議があったものとされた。

(3) 運営委員会

機構業務の円滑な運営及び推進を図るため、当初、3 回開催する予定のところ、2 回は運営委員会を開催し、1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、運営委員会を開催せず運営委員あて資料を送付した。

5. 役員の変動

(1) 理事

令和元年 6 月 26 日

再任	石 木	俊 治	((公社) 配合飼料供給安定機構理事長)
再任	進 藤	眞 理	((公社) 配合飼料供給安定機構専務理事)
再任	桑 田	義 文	(全国農業協同組合連合会)
再任	砂 金	甚太郎	(全国酪農業協同組合連合会)
再任	中 林	政 義	(日本養鶏農業協同組合連合会)
再任	平 野	宏	(協同組合日本飼料工業会)

令和元年 9 月 20 日

退任	桑 田	義 文	(全国農業協同組合連合会)
就任	齊 藤	良 樹	(全国農業協同組合連合会)

令和元年 11 月 21 日

退任	平 野	宏	(協同組合日本飼料工業会)
就任	岡 本	康 治	(協同組合日本飼料工業会)

(2) 監 事

令和元年6月26日

退任 富 所 真 一 (全国農業協同組合連合会)

就任 戸 辺 誠 司 (全国酪農業協同組合連合会)

6. 事業報告の内容を補足する重要な事項

令和元年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

< (参考) 主要業務処理事項 >

年月日	業 務 内 容
2019	
4. 15～17	文野清正公認会計士により、平成 30 年度の決算に対する監査を受けた。
4. 24	村尾誠監事、富所真一監事により、平成 30 年度の決算に対する監査を受けた。
5. 31	3 契約基金から、通常補填財源支援事業貸付金 7,304,720 千円及び通常補填財源強化事業貸付金 10,886,280 千円の返還を受け、同日付けで(独)農畜産業振興機構へ返還をした。
6. 3	運営委員会を開催した。
6. 5	第 269 回理事会を開催した。
6. 26	第 45 回定時総会を開催した。
〃	第 270 回理事会を開催した。(書面)
9. 4	運営委員会を開催した。
9. 6	第 271 回理事会を開催した。
9. 20	臨時総会を開催した。
〃	平成 31 年度配合飼料異常補填交付金交付契約の数量変更の承認を受けた。
11. 6	第 272 回理事会を開催した。(書面)
11. 21	臨時総会を開催した。
12. 9	文野清正公認会計士により、令和元年度の決算に対する中間監査を受けた。
2020	
2. 7	第 273 回理事会を開催した。(書面)
2. 20	3 契約基金から、通常補填財源強化事業貸付金 11,573,730 千円の返還を受け、同日付けで(独)農畜産業振興機構へ返還をした。
2. 25	臨時総会を開催した。
3. 11	第 274 回理事会を開催した。(書面)

年月日	業 務 内 容
3.17~18	文野清正公認会計士により、令和元年度の決算に対する中間監査を受けた。
3.27	臨時総会を開催した。

会 員 名 簿

令和2年3月31日現在

会 員 名	代 表 者 氏 名	住 所
(独)農 畜 産 業 振 興 機 構	理 事 長 佐 藤 一 雄	東京都港区麻布台 2-2-1
(一社)全国配合飼料供給安定基金	理 事 長 大 澤 憲 一	東京都千代田区内神田 1-4-1
(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金	理 事 長 砂 金 甚 太 郎	東京都渋谷区代々木 1-37-2
(一社)全日本配合飼料価格畜産安定基金	理 事 長 岡 本 康 治	東京都港区麻布台 2-2-1
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会	経 営 管 理 長 澤 豊 委 員 会 会 長	東京都千代田区大手町 1-3-1
全 国 酪 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 砂 金 甚 太 郎 会 長	東京都渋谷区代々木 1-37-2
全 国 畜 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 加 藤 義 康 会 長	東京都中央区新川 2-6-16
全 国 開 拓 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 平 木 勇 会 長	東京都港区赤坂 1-9-13
日 本 養 鶏 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 中 林 政 義 会 長	東京都千代田区神田須田町 1-7
(協)日 本 飼 料 工 業 会	会 長 岡 本 康 治	東京都港区麻布台 2-2-1

役 員 名 簿

令和2年3月31日現在

役 職 名	氏 名	所 属
理 事 長	石 木 俊 治	(公社)配合飼料供給安定機構
専 務 理 事	進 藤 眞 理	(公社)配合飼料供給安定機構
理 事	齊 藤 良 樹	全国農業協同組合連合会 常務理事
理 事	砂 金 甚 太 郎	全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	中 林 政 義	日本養鶏農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	岡 本 康 治	(協)日本飼料工業会 会長
監 事	村 尾 誠	日本食肉流通センター卸売事業協同組合 専務理事
監 事	戸 辺 誠 司	全国酪農業協同組合連合会 総務部長

運 営 委 員 名 簿

令和2年3月31日現在

区 分	氏 名	所 属 職 名
基金業務関係	藤 本 啓一郎	(一社) 全国配合飼料供給安定基金 常務理事
〃	深 井 厚 夫	(一社) 全国畜産配合飼料価格安定基金 専務理事
〃	引 地 和 明	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金 常務理事
〃	富 所 真 一	全国農業協同組合連合会 畜産生産部次長
〃	山 崎 正 典	全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部長
〃	露 崎 正二郎	全国畜産農業協同組合連合会 事業部長
〃	臼 井 靖 彦	全国開拓農業協同組合連合会 事業推進部長
〃	佐 藤 豊	日本養鶏農業協同組合連合会 代表理事専務
〃	高 橋 洋	(協) 日本飼料工業会 専務理事